

佐藤ベトナム訪問実力阻止闘争に対する

共産主義者同盟関西地方委員会の基本的態度

67・10・13

共産主義者同盟関西地方委員会

1 階級闘争は国際的に結合された

社会主義諸国、帝国主義諸国、植民地および被抑圧民族諸国の共産主義者、左派、戦闘的労働者、農民、学生諸君そして全人民諸君、我が共産主義者同盟は、今回、日本の首相佐藤の東南ア訪問、特にベトナム軍事政権訪問のために飛びたった、10・8羽田空港において、ベトナム訪問阻止闘争を戦った。この羽田闘争は、われわれ日本の共産主義者、左派と、最も戦闘的な労働者学生が心から諸国で戦っている、同志諸君に送るあいさつであり、諸君の諸国における闘争に対するわれわれのこたえである。

そして、又、この闘争は第三期階級闘争のはじまりであり、階級闘争は明らかに、国際的に結合されてはじめてたことを帝国主義下における戦いによって証明したものである。

1、ところで諸君、なぜ佐藤首相が、今、特に東南アジアを訪問しなければならないのか、又われわれが、なぜ羽田闘争を戦わなければならないか、という理由は明らかである。

一、アメリカ帝国主義の反革命的世界政策、特に、ベトナム戦争に於て、アメリカ帝国主義が行きつまずり、追いつめられ、日本帝国主義に協力を要請している事。

二、そればかりでなく、アメリカ帝国主義は帝国主義諸国にそっぽを向かれています。

三、日本帝国主義の独自の政治的、経済的侵略を東南アジアに於て佐藤首相は押し進めなければならない事。

四、中国の文化大革命によって、帝国主義と修正主義者の淡い期待が断たれた事。

五、植民地、被抑圧民族諸国に於ける民族ブルジョアと左派の闘争が、激化し、国際的に帝国主義者と民族ブルジョア軍事政権が結びつき、各国の階級闘争を弾圧しなければならない事、以上である。

2、だから、我々は日本に於て、首相のベトナム訪問に、実力闘争で戦ったのである。

この戦いは単に、日本に於ける反動と帝国主義者に対する戦いだけではなく、世界のブルジョアに対する戦いである。第三期階級闘争とは、明らかにこのように、各国の階級闘争が国際的に結合されはじめてたことを意味している。

労働者階級は祖国をもたない。もたないものを奪い取ることはできない。労働者階級は自からの民族的戦いを、国際的な階級闘争として戦わねばならないし、又、他国の労働者階級はその戦いを自らのものとして、戦わねばならない。64年以降、世界の階級闘争ははつきりこのような時代に入っている。

2 羽田闘争の意味

1、羽田闘争の意味は、学生が警官に撲殺されたことである。佐藤ベトナム訪問、日本帝国主義、国家権力の本質をはつきりとうき

ばりにしている。

2、羽田闘争は、三〇〇名の警官と三〇〇名労働者、学生が力と力を使った実力闘争であった。

3、これは、もし我々が労働者階級の利益と権利主張を獲得しようとするなら、今や一切の妥協と取り引きではなく、実力闘争以外にはありえない事を示している。

4、第三期の階級闘争は、その政治闘争に於てばかりではなく、経済闘争（合理化と職場闘争地域闘争）に於て、この様な実力闘争を要求されている。

5、羽田の実力闘争は、ここに始まったものではない。昭和三十五年安保闘争、続く日韓闘争そして、砂川基地闘争に於て一貫して戦われて来た闘争であった。

又、各工場に於ける合理化反対闘争、学園に於ける授業料値上げ反対闘争、等々、政治闘争と経済闘争は、この実力闘争に於て結合されはじめている。

現在の階級闘争の第二の基本的な特徴は、この政治闘争と経済闘争の結合という点にある。そして、労働組合をはじめとするすべての大衆組織は今や行動団体、執行団体に転化しなければならぬ時代に入っている。

6、羽田闘争は、階級闘争の世界的結合、政治闘争と経済闘争の結合、すべての団体の執行団体化を要求する戦いであった。この様な世界的に結合された階級闘争を通じて世界をブルジョアからプロレタリアートの手に獲得しなければならぬ。

3 権力は何をしようとしているか

1、とうわくしたブルジョア政治委員会と、その権力は、今、学生と労働者を「狂った暴徒」としてあつかっている。そして、デモ参加者の全員逮捕を指令した。すでに現在、百名の逮捕名簿を作製し数十名の逮捕状が出されている。

2、羽田闘争が計画されたものであるとして、破防法の適用を検討し始めている。

3、各大学自治会を非合法化するため学校当局に呼びかけ大管法を準備しようとしている。

それは、まず初めに大学の自主規制を要請するというかたちであらわれている。第二には、行政権力による事前調査、犯人引き渡し、情報交番を意図し、大学自治を切り崩そうとしている。更に文部省を中心として、彼らの念願の大学管理法を検討し始めているのである。

4、警察と公安委員会、慶応病院、そしてブルジョア新聞は口ぐらをあわせ自ら撲殺した学生を、労働者、学生の責任にしようとして、やっきである。丁度、あの安保闘争の構同志のように、今も又、警察は自らの暴虐と弾圧を労働者、学生に転化しようとしている。事実をわい曲し、犯人全国指名手配などというたわごとをならべててている。

4 なにをすべきか

1、大衆組織は、すべて羽田闘争を断固として支持しなければならない。すべての大衆組織は今はおしやべりの時期ではなく、行動団体化しなければならない時期である事を、はつきりと自覚しなければならない。

そして、政治闘争と経済闘争を結合し、階級闘争を国際的に結合されたものとして、戦わねばならない。それは、実力闘争である。

2、今、日本のブルジョアとその国家権力は共産党社会党そして諸派の間に分断のくさびを打ち込み政治闘争において最も英雄的に戦う部隊を孤立させようとしている。これは羽田闘争があるうがなかるうが実力闘争で社会問題が起ろうと起きまいと、六四年以降ブルジョアが基本的にとっている政策である。ブルジョアは、国際的な市場再分割と国内に於ける階級、階層の特殊利害の対立に依拠し、全人民を分断支配する点に主力を注いでいる。沖縄問題とナショナリズム、中国と反共防衛、自衛隊の強化、第三次防、そして自由化と産業政策これらすべてのブルジョアジーの考えと行動は我々共産主義者、労働者の分裂の上に築き上げられているのである。

3、現在、我々にとって最も重要な事は、権力とブルジョアジーに対し、議会主義的な取り引き、又、職場に於ける賃金と物価、賃金と合理化の取り引きによって自からの利害を労働者階級が獲得する事は出来ないという事である。我々は世界革命、暴力革命、議会制度の廃止、私有財産制度の廃止、すなわち、すべての世界の既存の社会組織を暴力的に粉砕する事を要求する。共産主義者は、これまでの一切の社会秩序を強力的に転覆する事によってのみ自己の目的が達成されることを公然と宣言する。支配階級をして共産主義革命の前にせんにりつせしめよ、プロレタリアは、革命に於て鉄鎖の他、失うべき何物をも持たない。彼らは世界を獲得しなければならぬ。

万国のプロレタリア団結せよ！

当面のスローガン

- 1 佐藤内閣打倒
- 2 ベトナム侵略阻止
- 3 佐藤訪ベトナム・訪米阻止
- 4 安保条約即時破棄
- 5 警視総監の罷免・一切の暴行、ギャクと弾圧粉砕

わが共産主義者同盟は、以上のスローガンにもとずき、今後大衆闘争の先頭に立つてであろう！

羽田闘争の成果を再認識し闘いを

10/13・10/21へ大きく発展させよ!!

1 真に10/8の闘いに共感し、山崎君の虐殺に抗議し、日本帝国主義との和解しない闘いのために部署についている労働者・学生・知識人・市民諸君！
今、何が一番重要なことか。我々は10/13全国反戦青年委統一行動日において何を獲得し、10/21国際的労働者人民の戦列に何を持って登場しなければならぬか。

山崎君の死に感傷し、追悼式を挙行することが、彼の死因の学問的探究か、それとも権力の弾圧に学園でバリケードを構築し、立て籠ることか、あるいは佐藤内閣のアレコレを一般的な糾弾することか。それ等も部分として正しい。だが事態の根本は、この間の権力側の急速な攻勢の前に、10/8の巨大な成果をともしれば見失いがちになり、一歩後退して受動的にしか対応し切れないことにある。

今、我々がなすべきことは10/8の成果を大胆に、自信をもって確認し、動揺し恐怖にかられつつある権力に対し、ベトナム、アテン、アメリカ、米国の黒人学生労働者等の英雄的闘いと連帯し、国際的規模で、日本帝国主義のアジア支配と日本反革命体制を打ち砕くべく、さらに一歩の攻撃につき進むことである。勇気をもって前進せよ！

2 それでは、10/8の偉大な成果とは何か。
その第一は、日本帝国主義の本格的アジア侵略に公然と挑戦することによって、権力の野望を全世界に暴露し、各国の支配階級の動揺を、反対に闘い続けている労働者人民に限りない勇気を与えた。権力の国際的国内的権威の失墜は莫大である。

第二に、日本人は剣闘士と野獣の闘いを観察するローマ市民から、はじめて血と命をかけた諸国の人民と同資格を得た。国際的闘いは今や一つに固く結びつけられる基礎を獲得した。

第三に、我々自身の利益を守り抜くには、我々自身が武装して闘い抜く以外に道はないこと、国家は我々の味方ではなく敵であることを身をもって示した。何人も踏み込み得なかつた、権力の堅城に、突き進んだがゆえに、権力は驚愕し、総力をあげて反撃を開始した。労働者は今本能的に自己の闘いの方向を把握し、始めた。この二つが現在の全社会的流動の根源である。このことと切り離された山崎君の死の意味はない。

3 権力は、その権威の失墜に対し、全機権を総動員し、権威回復に急ぎ乗り出し、「死因におけるデマゴギー」を起点に、闘争の本質と切り離し「学生運動の枠を越える」「暴徒」等々を宣伝し、「学生運動当否」「弾圧正否」論争に移行させようとしている。

彼等の狙いは何よりも、国際的人民的結合を分断すること、戦闘的労働者と全学連を人民の現状打破の動向を分断すること、それを基礎にした、新たな運動の芽をそぎとることである。権力の意図とその暴力の発動の前に、社会党は、動揺から右傾化し、傍観者として、この攻勢との対決を回避し、一定の距離をおいた政府批判と追悼祭りの感傷に屈服しつつある。日共はブルジョアジーの攻勢の先兵を荷いつつある。
10/8の成果を見放さず成果を否定し、受動的対応することこそ現在の焦点を「死因」論争の枠に狭めていること理由であり意味なのである。だが一定の後退を強いられたながらも、他方全ゆる職場、学園、地域において、大きな論争が引き起されつつあることは先進的労働者、学生、知識人が「10/8の成果の確認」の衝動を十分もつており、それを定着させる活動が成功することを物語るに過ぎない。また実際に職場、地区反戦では除々に下から闘いの真の意味が明らかになってくる。

全労働者・学生・市民諸君！
全学連の英雄的、自己犠牲的先駆的闘いがゆるやか

に、だが確実に労働者の昂揚に引き継がれつつある。ひるむ必要は更にはない。大胆に確信を持って巨大な前進の歩を進めよ！

4 先進的労働者、学生市民諸君、死因論争に限ることなく、大胆に10/8の三つの成果を宣伝し、10/13に向けそれを定着させよ！

我々の闘いによって勇気づけられた各国の労働人民の10/21への巨大な結果によって、我々の闘いは、今逆に深く支えられつつある。ベトナム、ラテン・アメリカ、そして、反革命の心臓部アメリカでの黒人学生、労働者の闘い、或いは西独をはじめとする西欧各国でも又、佐藤首相の行く所、至る所で反撃が準備されつつある。10/21闘争はこれ等国際的闘いの結合によって日米支配体制を動揺せしめるだろう。10/13はデマゴギーを挽ねのけ、10/8の成果を労働者は物が物とするだろう。そして10/21闘争に更に前進し、国防、動労、海運、全港湾等、労働者は兵器の輸送を拒否する。又、金属、機械、化学の労働者は、そのベトナム戦争兵器の生産を拒否するだろう。

すべての共産主義者、左派、民主主義者は、政治的自由の獲得、ベトナム戦争の終結、帝国主義の打倒をのぞむ以上のような方向にむけて労働者をはげまし、きたえ、10/8闘争の成果を定着化し、発展させなければならぬ。

インテリゲンツィアの任務

(一) 大衆運動と全人民に日和見主義を持ち込もうとする一切の企てを排撃し、マルクス・レーニン主義と労働者階級の総体としての利益を代表し、ブルジョア・イデオロギーを批判せよ！
(二) 日本から外国へ、外国から日本へ、闘いの情報の伝達ブルジョアの矛盾をパクロせよ！
(三) 一切の場所と機会、特に公然、非公然、仮装の文章による宣伝煽動の任務、権力とブルジョアジーの意図のパクロと労働者の教育！

大学における任務

(一) 政治的自由と民主主義、学問と教育の自由の獲得と防衛は、学校当局の基本的任務である。
(二) 教職員組合、即ち、教授、助教授、助手、研究生、職員は、(一)の任務と同時に、労働者としての任務を果さなければならぬ。
(三) 教授、職員は、学生を守らなければならない。何故なら、学生は、教育者、労働者としての諸君の任務を代位し自己犠牲的に闘っているからである。
(四) 権力の政治活動の禁止を排除せよ！

学生運動の任務

学生諸君よくやった、諸君の英雄的、自己犠牲的闘いは、日本だけでなく世界の労働者と左派を勇気づけている。諸君は
(一) 学生運動の伝統を守り、闘いを続け発展させよ！
(二) 世界革命と政治的自由のための闘い、そして改良の闘いを自己犠牲的に進めよ！
(三) 帝国主義と戦争に対し、平和と民主主義のために闘え！
(四) 権力とブルジョアジー、そのイデオロギーから学問と大学の自治を守れ、それは全人民のための闘いである。

労働者階級の任務

政治闘争と経済闘争の結合を断固として押し進め

I 政治闘争

(A) ベトナム侵略の為の兵器の生産輸送を行っている労働者は、世界革命とベトナム民族自決の承認の任務遂行の為に一切の侵略兵器の生産と輸送を拒否せよ！
(一) ナバーム弾、砲弾、有毒ガス等を生産している機械、金属、化学産業労働者は反革命の為の生産を拒否せよ！
(二) 国鉄、日通、港湾、海運労働者は、兵器、物資の輸送を拒否せよ！
(三) その方法は、反戦の宣伝、煽動、サボタージュ、破壊、ストライキである。帝国主義の心臓を撃て！
(B) 国家権力に対する闘争において、国家公務員労働者は、政治活動に対する規制の排除、特に政令二〇一号(スト権ハク奪)を粉砕しなければならぬ。
(一) 10/21反戦ストを期に政令二〇一号を無力化させよ！
(二) 人事院勧告の打破！
(三) 教育労働者は、国家、戦争、思想の自由について自らの見解を教壇から語りかけ、教育二法を無力化させ粉砕せよ！

II 経済闘争

(A) 物価値上げは、大衆収奪である。
(一) 物価と賃上げの取り引きは労働者と農民階層の対立を激化させる。
(二) 同時に労働者内部の分裂を生み出す。
(三) 労働者は物価値上げを地域住民との共闘により粉砕せよ！
(四) 賃上げを産業別闘争として闘い第三者機関を排除せよ！
(B) 生産性向上と賃上げの結合は企業主義とし込め策動である。
(一) 産業政策と合理化粉砕！
(二) 労働組合青年部の特殊な任務は
(三) 反戦青年委との一層の結合強化！
(四) 政治闘争を持ち込め！
(五) 青年部をおしやべりの機関から行動、戦闘の機関とせよ！

職場反戦 地域反戦組織の任務

(一) ベトナム戦争の激化、日本政府、独占の侵略、加担に対し、闘いを深め、広め、強化せよ！
(二) 砂川、成田、沖繩、羽田闘争を、日本帝国主義に対する七〇年安保闘争に発展させよ！
(三) 全世界のブルジョアジーに対するプロレタリアートの国際的結合された階級闘争へと発展させよ！
(四) すべての反戦闘争を反帝国闘争へ発展させよ！
(五) 反戦闘争を、ブルジョアジーに対する戦争へ発展させよ！

地域諸団体の任務

(一) 権力と中央官僚の統制を排除せよ！
(二) 国際機関と官吏に対する罷免権の獲得。
(三) 公害を労働者の安全、労働条件闘争と結びつけよ。物価値上げは、
(四) 大衆収奪である。(a)合理化、首切り、配職の源泉である。(b)値上げと賃金の取り引きは、住民と労働者の分断支配である。(c)だから、住民は、権力と独占ブルジョアジーに対し、労働者と結合して、すべての要求を実現せよ。(d)大衆団体は、行動団体化せよ！

10月13日 全国反戦統一行動
10月21日 国際反戦統一行動